JAVCOM
Japan Association of Video Communications
JAVCOM ニュース（通巻第 127 号）2018 年 5 ～ 6 月号

NEWS
2018年 5月 15日発行
vol. 127

設立：1981 年 8 月 21 日　NPO 法人化：2004 年 8 月 31 日
発　行：特定非営利活動法人日本ビデオコミュニケーション協会
理事長：金　丸　幹　夫
編　集：広報出版委員会（委員長：塩原　孝夫）
〒 102-0093 東京都千代田区平河町 2-3-10-510
電話 03(3234)5994　FAX 03(3234)5995
http://www.javcom.or.jp
E-mail：info@javcom.or.jp

リード エグジビジョン ジャパン㈱ 主 催

「通 信・放 送 Week 2018」催される

～金丸理事長がオープニングセレモニーにてテープカット～

平成 30 年 4 月 4 日（水）～ 6 日（金）の 3 日間、東京国際展示場 東京ビッグサイトにて、「通信・放送 WEEK 2018」と題する展示会が行われ、当会の金丸理事長がオープニングセレモニーの際に壇上にてテープカットを行いました。（写真右）

なお、主催はリードエグジビジョンジャパン㈱で、昨年まで開催されていた「光通信技術展」「映像伝送EXPO」に、本年より新たに「4K・8K 機材展」「次世代モバイル通信展」の 2 つの展示内容を併設して行ったものです。

大勢の来場者で埋め尽くされたオープニングセレモニー

本年初開催となった「第 1 回 4K・8K 機材展」は、①総務省が「2020 年に向け 4K・8K 放送の本格普及」を推進 ②4K・8K は「映像」をまるで「現実」のように見せる ③「遠隔医療」「夜間での鮮明な監視」など多分野への波及を期待 ④業界の期待に応え「4K・8K に特化した展示会」というのが主催者が開催を決定した理由とのことでした。

なお、本展及び併設のコンテンツEXPO 東京に出展に出展した当会会員社は、三友㈱、㈱フォトロン、太陽企画㈱でした。（裏表紙に出展内容を掲載）

NPO法人 JAVCOM 技術研究委員会 第 17 回 研修会

「富士フィルムオプティクス㈱盛金工場見学」

御案内頂いた、製造部の藤田氏と江橋氏

参加メンバー

技術研究委員会第 17 回研修会が開催されました。

今回訪れたのはまだ寒さが厳しい２月９日、フジノンブランドのレンズを製造している富士フィルムオプティクス株式会社盛金工場です。東京から車で２時間 30 分ほどの茨城県常陸大宮にあるこの場所は、レンズ研磨には欠かせない水質のきれいな久慈川の水を利用するため選ばれたそうです。

富士フィルムオプティクス株式会社は富士フィルムグループの光学デバイス事業の生産を担って設立された精密光学機器メーカーで、各種レンズや光学機器を中心に製造加工組み立てなどの技術を駆使し世界各国へレンズを送り出しています。

事業の中心としては光学デバイス製品の製造、テレビカメラ用、シネカメラ用、監視カメラ用、デジタルカメラや携帯カメラ用、車載用レンズ、DVD やBD のピックアップ、複写機やプロジェクターレンズユニットなど様々な光学製品の製造を行っています。これら様々な製品の製造ラインをほぼ全て自社開発しており、精度を落とすことなく自動化し、また自社 IT 技術を駆使した生産管理システムを導入し生産効率を飛躍的に高めているそうです。

製品だけでなく製品を作り出す道具や装置そのものをゼロから作り上げることが出来る技術こそ会社の強みなのですね。

次にレンズの製造行程を見学致しました。精密工場と言う事もあり参加者全員白衣に着替えて出発です。案内頂いたのは製造部の江橋氏と藤田氏に工程ごとに説明頂きました。4 階建ての社屋は 1 階から 3 階までが作業場で各工程ごとに部屋が分かれております。大まかに分けると以下の行程があります。

○**荒摺**…平らなガラス板を次工程の精研磨・研磨用に形を整える工程。蛍石という直径 20cm 厚さ 5cm 位の円柱材料を大体のレンズの形にするまで約 20 分位で完成。削る前の材料で約 20 万円。半分くらいは削ってしまうので数万円が水と一緒に流れ出てしまう事に・・・

○**精研削**…荒摺りが終わったレンズをさらに精度良く仕上げる工程。荒摺から次の研磨工程を含め 4 段階の研磨を行う事で曇っていた表面が透明になって行く。

○**研磨**…レンズの表面を最終的に平滑にする仕上げ作業の行程。一面あたり磨くのに 3 時間から 4 時間かかるため技能

富士フィルムオプティクス㈱盛金工場全景

付近を流れる久慈川

者の下慎重に行われている。くもりガラス状態がつるつるのピカピカになります。

○芯取…レンズ光軸を中心に外周を削り偏りのないレンズに仕上げる工程。

○コート…レンズの表面に何層もの化学物質を真空蒸着する工程。光をコントロールする事で表面の反射を減らし透過性を高め、特定の波長の光だけを透過させることが出来き、何枚も重ねても透過率を維持できる技術。これによりレンズを重ねても透過率は失われない。

○接合…特殊な接着剤を使って屈折率の異なるレンズを組み合わす工程。これにより色収差を押さえ必要な光学特性を得ることが出来ます。

○検査…仕上がったレンズが要求された品質を満たしているか、レンズ表面精度や透過精度等の３次元測定が出来る装置を用い様々な角度から検査する工程。

○組立…鏡胴やその他の部品と組み合わされ製品として完成する工程。レンズ性能の尺度であるMTF検査等を行い個体のばらつきを無くします。この作業は熟練した技能者により１本ごと行うため１日に完成するレンズには限りがあります。最終的に外観チェックなどが済めば完成です。

これらの行程を国家資格技能検定を持つ技能者が在籍しており荒摺から組み立てまでそれぞれの技能者の下作業が行われています。研磨設備や検査装置など使用し製造しますが、多くの行程は技能者（職人）の経験や知識と技術力が必要な現場でした。こうした技術者の育成にも力を入れており、技能検定国家資格を得ることで若い世代の活躍や、会社全体のスキルアップを図っていました。最終的にレンズ１本を一人の担当者が組み立てから検査までを10人24時間３直体制で一貫して行い製品の品質を保っているそうです。とは言っても箱型レンズの組立工程だけでも4，5日かかるとの事。最近は4Kレンズの需要も増加しておりフジノンレンズ唯一無二の製造工場として盛金工場から世界に向けて出荷しています、と自負していました。普段何気なく使っているレンズ、価格も高価なのも納得。職人の魂がこもったレンズ、もっと大事に使用しなければと思う次第です。

（2班　久松 靖志）

研磨工程

荒摺工程

NPO 法人 JAVCOM No.151　セミナー

《詳報》「映像制作ビジネスと著作権」

～テレビ・映画・動画配信等における著作権と実演家の権利の取扱いは～

主催者代表挨拶
理事長　金丸 幹夫 氏

司　会
福田 美穂氏

開催あいさつ

テレビ、映画、動画配信、出版、音楽やゲーム等のコンテンツビジネスが拡大するなか映像制作ビジネスにおける演出家、俳優、声優等々の著作権の扱いについての注意深い対応が必要であります。本セミナーでは、長年この道に携わってこられたエキスパートの講師の方々に事例を交えてご講演頂きます。著作権の扱いを知ることは顧客からの信頼を獲得しビジネスの発展に繋がります。是非、映像制作に携わる皆様方の今後のビジネスにお役立てくだされればと企画しました。

アイティアクセス㈱　福田 美穂

日　時：2018年３月８日(木)　14:00～17:30

会　場：富士フイルム 西麻布ホール　参加者：122名

特別協賛：富士フイルム㈱、伊藤忠ケーブルシステム㈱

後　援：ＩＴＶＡ-日本、(一社)映像情報メディア学会、(公社)映像文化製作者連盟、(一社)全日本シーエム放送連盟、(一社)全日本テレビ番組製作社連盟、(一社)日本アド・コンテンツ制作協会、(一社)日本映画製作者連盟、(一社)日本映画テレビ技術協会、(一社)日本映像ソフト協会、(一社)日本ポストプロダクション協会、(一社)日本民間放送連盟、ジャパン データストレージ フォーラム、ＮＰＯ法人 映像産業振興機構、(一社)日本映像・音楽ライブラリー協会、㈱映像新聞社、㈱放送ジャーナル社、㈲ユニ通信社、㈱ユニワールド　※順不同

次ページに続く

☞前ページからの続き

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 講 演 1 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

株式会社TBS テレビ　総務局
法務マネジメントセンター
ビジネス法務部　担当局次長
日向　央（ひゅうが ひさし）氏

第　一　部

「映像制作で、他人の「コンテンツ」を用いる場合に「無断でつかえるか」／「権利者の許諾をえなければ使えないか」を判断する「５段階フローチャート」を解説」

著作権のおかげで巨額の収入が得られるか、そもそも著作権とは何かを TBS ドラマ日曜劇場「半沢直樹」を実例にお話を伺いました。

ドラマひとつを例に取っても沢山の権利を有する関係者がかかわって居る事、原作者の池井戸潤さんの小説を例にあげて、巨額の収入を得られる仕組みを説明していただき、著作権は出版（複製）を禁止出来る権利である事（条文に「著作者は、その著作物を複製する権利を専有する」とあるので、複製を禁止（許諾）する権利であることが分かる）を、クイズを交えながら説明して頂いた。

また、コンテンツの利用者としての立場から、著作権法というわかり難い法律を、権利者の許諾が必要か、権利が生じていないので、無断で使えるか、いずれであるのかは、ステップ１～５の項目に分かれた非常にわかりやすいフローチャートにかければ分かるとの説明を頂いた。各ステップの問いにYES、NOで回答していけば、許諾が必要かそうでないかが分かるようになって居る。

また、著作権法が定める権利者について、著作者、実演家、レコード製作者、放送事業者、有線放送事業者が該当すると説明された。そして、クイズ形式で、制作会社イーストは市販DVD制作の目的で、TBS は、テレビ放送の目的で映像に市販CD を録音する場合に関して、誰の許諾を得たらよいのか、セミナー参加者に問いかけ、CD の中に含まれる権利者ごとに、ステップ１～5 の項目順で上記フローチャートにかけ、説明を頂いた。

また、同じ市販CD を録音した映像をネット配信する場合でのクイズでは、誰の許諾を得る必要があるかについて、制作会社も放送事業者も著作者、実演家、レコード製作者全ての許諾を得る必要があると回答された。

また、著作者の公衆送信権についても触れられ、公衆送信の規定、概念を解りやすく説明されました。ネット送信権では、著作者、実演家、レコード製作者の3 つの権利者が保有する権利の違いを条文で説明して頂きました。

JASRAC（日本音楽著作権協会）についても触れて、著作権の管理について説明頂きました。ブライダル関係のCD の取り扱いについて、非営利目的であっても、複製を行なえば、複製権を侵害するということになると説明され、その後、本題である各ステップを事例を示しながら興味深く説明していただきました。

各ステップの内容は、下記の通りでした。

1. 利用しようとして居るのは、著作権法で保護されている著作物、実演、レコード、放送、有線放送の１つ以上か。
2. 権利の存続期間が満了しているか。（著作者の死後50 年、実演が行われてから50 年等）
3. 外国人の著作物、実演、レコードなどを利用する場合、日本が条約などで、その外国人の著作物、実演、レコードを保護しているか。
4. 保護される著作物、実演、レコードなどにつき、権利者の権利が働くような利用をしているか。
5. ４での利用をしていたとしても、その権利が法律上制限されるような事由があるか。というそれぞれの内容です。

第　二　部

映像制作とその二次利用にまつわる（たいへん）複雑な「権利関係」を解説」

著作者は、自ら創作した著作物を複製出来る権利を持っているか、いないかで、クイズ形式でセミナーが始まり、著作権は排他的、独占的利用権であると説明された。また、TBS はテレビ番組「半沢直樹」の著作権をもっているが、TBS はこの番組を市販用DVD に複製できるか、あるいは誰に対しても市販 DVD への複製を禁止することができるかとの問いで、TBS を含めた、番組の中に存在するどの権利者も複製ができない（ただし、権利者の全員の許諾が得られれば複製出来る）、一方、TBS を含めたどの権利者も、複製を禁止することができる、ということでした。

テレビ番組の二次利用についても説明され、膨大な権利処理が必要であることを説明された。

映画の著作物に関して説明いただき、著作物の創作者＝著作者がその著作物の利用に関し著作権と著作者人格権の全てを持つのが法の原則であるが、「映画の著作物の著作者」は映画監督、演出家であること（小説や脚本など原著作物の創作者ではないこと）、そして「映画の著作物の著作者」は、人格権を有しているが、著作権は有していない。映画の著作物の利用に関し、「映画の著作物の著作者」に代わり著作権を持つのは、映画製作

当ページは NPO 日本ビデオコミュニケーション協会発行の会報誌「JAVCOM NEWS」の内容を掲載しております。

者である。「映画の著作物の原著作物の著作者」と「映画の著作物において複製されている著作物の著作者」は「映画の著作物の著者」ではないが、映画の著作物の利用に関し著作権を有しているというように、非常に複雑なことになっている旨を説明された。

著作権法によると「映画の著作物」には、映画の効果に類似する視覚的又は視聴覚的効果を生じさせる方法で表現され、かつ、物に固定されている著作物を含むものとすると規定されているようです。

また、映画の著作物は、原作小説やその脚色脚本の側からみれば、その二次的著作物であり、著作物を翻案することにより創作した著作物とされているようです。

非常に理解しにくい映画の権利関係を法律に基づき解りやすく事例を用いて、説明していただいた。Q&A も時間は押し気味ではあったが、数人からあり、グレーな部分も含め回答して頂いた。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 講 演 2 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

レイ法律事務所
統括パートナー
弁護士 河西 邦剛 氏

映像制作ビジネスと著作権トラブル「映像番組制作上の法的注意点」「クレームへの具体的対応」「BPO」を解説」

まず、Ａｍａｚｏｎオリジナルドラマ「チェイス」を題材に、同ドラマに起きたトラブルの原因を分析していただいた。分析の視点としては、①法的問題なのか、それとも倫理上の問題なのか、②ネット配信が原因なのか、③被害者遺族に対する法的・倫理的責任なのかといった観点が挙げられていました。

そのうち、特に法的問題については、原作者、出版社、テレビ局の各主張をご説明頂き、それぞれがどういった観点から問題になりうるか、著作権の帰属や譲渡について説明がなされ、許諾を取るべき相手についても解説をしていただいた。

また、原作者、脚本家からそれぞれ原作、脚本について許諾を取る必要があるだけでなく、二次的著作物という観点から、原作者からも脚本について許諾を取る必要があるという複雑な状態があることが説明された。これは、著作権法２８条において、原作者が脚本の利用について、脚本家と同一の権利を有するという読み方になるということであり、著作権という法律の複雑さを感じるものであった。

さらに、許諾を取る相手方は、原作については、原作者でなければ出版社や日本文藝家協会であり、脚本については、日本脚本家連盟や日本シナリオ作家協会が管理しているかウェブサイトで確認し、管理対象でなければ脚本家に確認する必要がある。と説明されていました。

そして、ドラマは、映画の著作物にあたることから、局制作番組は局＝映画製作者、局が制作会社に委託している場合は制作会社＝映画製作者となり、権利関係の処理はこれを踏まえて行うべきとの説明がされていました。

これに加え、原作や脚本以外に制作会社が許諾を得るべき対象としては、音楽関係についてJASRAC 等に申請することや俳優について芸能プロダクション等から許可を得る必要がある可能性もあるとのことでした。

次に、テレビとネットの差異については、著作権法上の権利が異なるようですが、許諾を取るべき相手方に変わりはないということでした。ネットでの配信事業も増えている中で、常々疑問に思うことについてもご説明いただくことができました。それに関連し、BPO や放送法上の訂正報道についてもご説明いただいた。

また、番組制作でよく悩む「引用」についても、裁判例などから５つの要件を満たすことで、著作権法上適法となるとされていることをご説明いただき、要件の中でも特に引用の目的に照らし正当な範囲であるように気を付けるべきと説明がされていました。

その他、番組制作で起こりうるクレームについて、実際の対処方法を寸劇でご説明していただき、クレームに対しては①クレーム聴取、②事実確認、③要求内容の聴取、④対応方針の検討、⑤対応と段階を踏んで対応するべきとご説明いただきました。

講演終了後の質疑応答では、参加者から質問がなされ、著作権など法的問題への関心の高さがうかがえました。

（文責　山岸 勝則）

技術研究委員会 2018 年度 3 月勉強会 &第 224 回定例会

富士通メディアクラウド勉強会&横浜データセンター見学会

講師：富士通エフ・アイ・ピー株式会社
クラウドビジネス推進室副室長
徳 納 尚 成 氏

富士通メディアクラウド勉強会と横浜データセンター見学会がJAVCOM 技術研究委員会3 月度勉強会として2018 年3月20 日（火）に開催された。

申し込み人数30 名限定のところ、33 名の参加があり、A グループ、B グループ2 班に分かれての勉強会、データセンター見学会となった。15 時の集合時間に合わせ参加者は続々集まって来るものの建物名を表す看板が何もない巨大な建物を前に、おそらくここがデータセンターだろうと少し不安げに幹事役の技術研究会第3 班坂本班長を待った。メンバーが未だ数名しか到着しないこともあり、そぼ降る雨の中入場の声が掛かるまで外で待機した。ようやくデータセンターの受付監視の方に本日の勉強会に来た旨を伝え、ようやくの入場となった。インターホーン越しに顔写真入りの身分証明書をかざして、データセンターの中に入ることができた。

～エコロジーを十二分に感じるオフィス棟へ～

2010 年12 月に竣工・開設したデータセンターということで全てが真新しく、まず案内されたオフィス棟は随所にECO や自然光を採り入れたオブジェがあり、ソリッドステートなデータセンターとはまた違った緑や自然の樹木が多く飾られた雰囲気の大会議室に通していただいた。

全員が揃ったところで技術委員会第3 班坂本班長の掛け声で17 名、16 名のメンバー2 班に分かれ、早速データセンター担当の女性ナビゲータの案内で約5 分のデータセンター概要のビデオ紹介、10 分ほどのパワーポイントを用いたプレゼンテーションがあった。

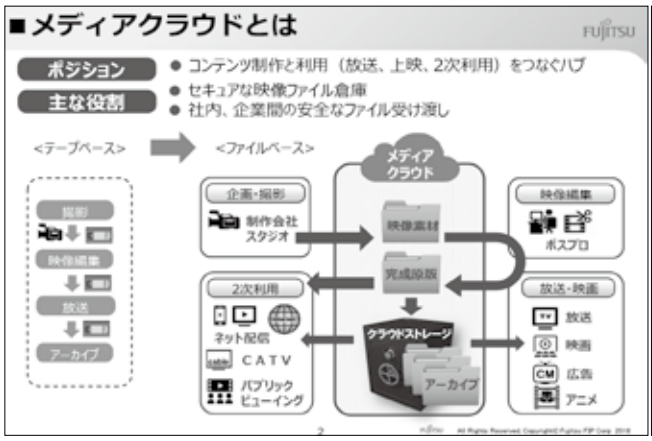
富士通が提供するデータセンターは全国主要16 拠点に展開しており、その中でも横浜データセンターはとりわけ最新技術を導入したデータセンターである。

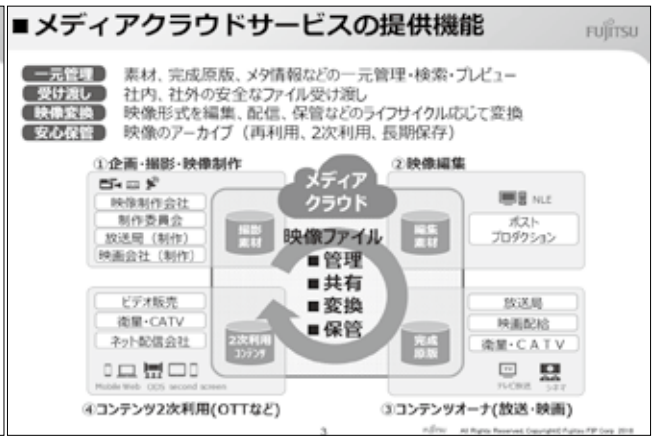
群馬館林のデータセンターとともに、関東圏のビッグカスタマーの大切なビッグデータを保管、管理、運営する役目を果たしているということだった。データセンターにとって一番大切な「Safety 安全性」に関しては堅牢なファシリティ設備の第一が地震対策であるという、その対策としては最新の免震構造設計がなされており、停電時にも無停電装置が72 時間無給油運転が可能な自家発電設備を備えており、重油の供給も石油会社との間で優先的にA 重油が供給される契約をしているという。外部とのネットワーク接続は複数キャリアと接続しバランスと効率を考えた接続体制を整えており、リスクヘッジしているという。監視体制も24 時間365 日有人による監視を実施しており、センター内各所に監視カメラがあるだけでなく、私は初めて聞いたのだが登録されたユーザーが来場した際に発行されるIC カードに超音波タグが付いており、ユーザーやカスタマーの不要なエリアへの出入りを抑止しているという。データセンター利用者が万が一予測できないルートを通ったりした場合は、すぐさま監視センターにその情報が発砲され対応しているという。「Green エコロジー」に関してはECO を徹底しており、電源と熱に対する省エネルギー対策が各所に施されているという。サーバーラックを冷気、暖気分離形式でマシンを常時冷却しサーバーから放出される熱は事務所棟の暖房に利用しているという。また750 トンの雨水をため浄水しセンター内のお手洗い等水源を必要とする設備に再利用しているという。室内の照明も無駄な点灯を避ける意味で感知式LED ライトを採用し必要な時に必要な個所だけ照明を使用する形となっている。

～いよいよ旗艦（フラッグシップ）のデータセンターへ～

われわれがプレゼンテーションを受けたオフィス棟からいよいよ見学に移動することとなった。エレベータで一階に降り、手の平静脈認証や持ち込みPC のウィルスチェックを行うウィルスチェックゲートウェイを見学、その後大本営のデータセンター入口へと向かった。広い構内でデータセンターへの入

当ページは NPO 日本ビデオコミュニケーション協会発行の会報誌「JAVCOM NEWS」の内容を掲載しております。





口は一か所のみ、データセンター内にはPC や携帯電話、金属類の持ち込みが禁止されており入口には飛行場の搭乗口さながらPC やハードディスク等の持ち込み、持ち出しを検知する金属探知機が設置されていた。

その後、全国の拠点を含めた統合運用マネジメントを行うシステム監視ルームをガラス越しに見学した、ルーム内では監視を担当しているメンバーが一斉にダメージを受けることを避ける目的でインフルエンザやばい菌による感染を未然に防ぐ滅菌処理が施され、クリーンな環境でシステム監視ができるよう設計されているという。11 部屋あるデータセンターに入口、出口、搬入口も強固な監視、認証システムがされており生体認証システムによって権限のない入室者の不正入室を防止、共連れ防止対策もされていた。

サーバー室内は天井高3 メートル、床下は82 センチのフリーアクセスとなっている。

最後に地下1 階の免震対策を施している基礎部分を見学した。積層ゴムと弾性すべり支承の2 種類の免震部材で構造設計されており、2011 年3 月11 日に起こった東日本地震の際に建物がどれくらい移動、動いたかを金属プレートにその爪痕として、トレース針で卦がかれたプレートを見せてもらった、約5 センチほど動いた軌跡があった。震源地であった仙台にある富士通の東北データセンターでは1 本のラックも倒れなかった。とも伺った。

～富士通の掲げるメディアクラウドとは～

ひととおりのデータセンターの見学の終了後、再びオフィス棟に戻り富士通エフ・アイ・ピー株式会社の徳納尚成様より富士通が提唱するメディアクラウドのプレゼンテーションがあった。米国ラスベガスで春に開催されるNAB のテーマからトレンドを読み解き、ASTC3.0 やHDR,HFR,WCC,4K といった技術トレンドとの相乗効果を目指したM,E,T Effect (Media,Entertainment,Technology Effect) のテーマについて徳納氏が、米国では地上波放送やＣＡＴＶでのコンテンツ視聴に対し、OTT（Over The Top),TV Everywhere 等の有料ネット動画視聴の比率が６０％以上となりテレビにおける視聴を超えたが、その視聴コンテンツの中心はテレビ番組コンテンツである点に注目していると説明があった。その中でコンテンツオーナーはいかに膨大なデータをアーカイブしアップロード、ダウンロードの運用、送受信、ワークフローにおいて制作コストをかけずマネタイズするか「誰がどこでPreView するか？」

チェックと承認のプロセスがどこでどのように機能するかなど、もはや物理的なテープやハードディスクなどのメディアでの情報のやり取りではなく、高速転送システムを介したデータ転送で制作、協調作業を行う制作ワークフローの時代に合わせたサービスであるという。

富士通が目指す、メディアクラウドとはコンテンツが制作される過程の中で、テープからインジェストする場合は物理メディアを流通させるため、アナログ的なやりとりが発生するが、テープからファイルベースに変換された後は、すべてデジタルデータとして様々なファイル形式、容量でやりとりされる。そのやりとりの制作や利用、確認プレビューまでメディアのHUB としての役割を大きく担うのがメディアクラウドである。

管理、共有、変換、保管がメディアクラウドで提供される基幹サービスだが、管理に関しては素材、完成原版、メタ情報といった素材にひもづく情報も一元管理し、検索やプレビューの機能もあるという、また共有に関しては社内や部署間のインターナルな共有も行い、アクセス管理を行うことで社外、協力・関係会社とも素材のアセット管理、共有が可能という。変換に関しては先にあげたテープインジェストの変換に加え、マスターフォーマットからプレビュー用の低解像度のプロキシ映像素材への変換や、必要に応じたフレームレートや解像度変換を行うことも想定するという。ただし変換に関する課題も若干あり、特に今後ますます需要が増すことが予想されるHDR(ハイダイナミックレンジ) のLUT(カラールックアップテーブル) 間の変換やRec.709 やBT.2020,S-Log などのカラースペース間やDolby Vision のPQ カーブやHLG などのHDR ガンマトーン形式の変換など課題はあるという。

実際にユーザーが利用する際のプレビュー画面のGUI の説明もあり、プレビュー画面上にアノテーション機能として絵に対してコメントを付与したり、またメタデータ表示ウインドウには、メタ情報に対して自由に記述できるウインドウを有しているという。

保管に関しては一時的な保管、中間保管、長期アーカイブまで保管の目的や用途に応じて出し入れのし易い構造にしているという。

MAM 機能も搭載されたストレージ プラス アセット管理の

富士通メディアクラウド勉強会& 横浜データセンター見学会

機能を有し、ストリーミングによるダウンロードや部分的なダウンロード（パーシャル・リトリーブ）に対応したメディアクラウドの提供を考えているという。

最後にLTO-8 シリーズの富士通ETERNUS LT シリーズの発表もあり、2018 年上期にはLTO-8 製品群がリリースされるという。LTO-8 はLTO-7 の倍のデータ保管が可能となり96ＴＢモデルのＬＴ20　S2 から大型カートマシンタイプのＬＴ270 S2 は67,728 ＴＢ容量まで実現するという。

今後、JAVCOM メンバーとは必要に応じて意見交換やパイロットユーザーとして使用するなど随時、情報交換をしていきたいというお話もあった。

メンバー全員、とても有意義でかつ、普段は入ることも見ることも出来ないデータセンターを細部に渡り見学、紹介を受けたことはとても勉強になった。

末筆であるが今回の勉強会をコーディネート下さった富士通 エフ・アイ・ピー 徳納様、今本様に深く感謝申し上げます。

そして勉強会レポートを締めさせていただく。

（文責：株式会社フォトロン　鎌田浩充）

NPO法人 JAVCOM ソフト研究委員会 4月 勉強会
「巨大“e スポーツ”イベントを知ろう！」

開催日：2018 年4 月17 日（火）18 :00 ～
会　場：株式会社テアトル・エコー４Ｆ会議室
参加者：26 名
講　師：㈱共同テレビジョン Shibuya K7 Studio 小西正利氏

「e スポーツ（e-sports）」とは「エレクトロニック・スポーツ」の略で、海外ではスポーツとして認識されており、2007 年からOCA（アジアオリンピック評議会）が主催する「アジアインドアゲームズ」で“e-sports”を正式種目として採用している。今回は実際に“e-sports”イベントに携わっている㈱共同テレビジョンShibuya K7 Studio の小西氏を講師に迎え、配信映像を見せていただきながらの勉強会を開催した。

まずは、パワポ画面に「e-sports って、最近盛り上がっているけど、映像業界はどうしていけば良いの」とのテロップが出され、“e-sports”の現況について説明がなされた。

全世界の競技人口は、『League of Legends』を例に挙げると、9000 万人に及ぶ。この数字は、テニス人口の1 億人を下回るが、ゴルフ人口の6500 万人を上回る。賞金に関しては、アメリカ・シアトルで行われた「Dota2-The International」に於いては、賞金総額23 億1000 万円、優勝賞金10 億1000 万円に達する。人気タイトルに於いては世界規模の大会が開催される。世界別賞金獲得金額の各国シェアを見てみると、中国35.5%、米国27.1%、韓国22%、スウェーデン09.7%、デンマーク05.6%であり、日本の“e-sports”市場は、伸び代が大きいといえる。

さらに、日本国内における“e-sports”産業の普及と発展のために「一般社団法人日本e スポーツ連合」（略称：JeSU）が設立され、2018 年2 月1 日より正式に活動を開始した。公認6 タイトルでJeSU 公式プロライセンスの発行を予定しており、プロリーク化に拍車がかかっている。

このような背景のもと、共同テレビションが生配信（4K60P）を担当したiOS・Android 用ゲームアプリ『モンスターストライク』（㈱ミクシィ）のLIVE エンターテインメントショー「XFLAG PARK2017」の生配信について、実際の映像を見ながら、技術的な取り組みに言及しつつ解説がなされた。昨年７月８・９日の２日間、幕張メッセにて行われたこのイベントにおいては、来場者数は、2 日間で延べ約4 万人、YouTube LIVE での生放送の視聴回数は400 万超を記録した。イベントでは、音楽ステージ「モンソニ！」、フルオーケストラによるゲーム楽曲演奏、少林寺拳法× オペラという異色のパフォーマンスショー「MONST OPERETTA ～Shaolin」などが上演された。

そして、話題は「e-sports の問題点」に及んだ。欧米では、ボトムアップで“e-sports”が生まれ、トッププレーヤーが頂点に君臨するピラミッド構造が確立されているが、日本では、プロ選手が食べていける状況にないこともあり、プロゲーマー自体の数が少ない。“e-sports”業界を盛り上げていくには、“e-sports”をスポーツ競技として捉え、放送コンテンツだけでなく、配信・リアルイベントも絡めて、競技人口を増やしていくことが活性化への王道であることが強調され、事例として共同テレビジョンが制作するPC カードゲーム『シャドウバース』（㈱Cygames）連動バラエティ番組「シャド場」（TOKYO MX）が紹介された。

ある年代から上には、まったく無縁の世界である“e-sports”について、配信TD の観点から、ユーモアを交えながら、わかりやすい解説をしてくれた小西氏に心から感謝申し上げる。

（文責：学校法人東放学園キャリアサポートセンター　吉田諭敏）

NPO法人 JAVCOM 技術研究委員会 4月 勉強会

「テレビ東京社内設備見学 と 動画配信サービスParavi について」

技術研究委員会
高瀬義美委員長
（㈱ニューテレス）

技術研究委員会
4班 佐藤雅文班長
（㈱東京サウンド・プロダクション）

開催日：2018 年 4 月 24 日（火）14:00 ～ 17:30
会　場：株式会社テレビ東京
東京都港区六本木 3-2-1 六本木グランドタワー
参加者：３７名
社内見学：㈱テレビ東京　技術局　映像技術部

●動画配信サービス Paravi について
㈱プレミアム･プラットフォーム･ジャパン 兼 ㈱テレビ東京
島田 政明様　星 雄二 様

4 年超のプロジェクトチームで完成させたテレビ東京様の社内設備見学と、2018 年 4 月からサービス開始となる PPJ による動画配信サービス Paravi のプラットフォームと素材納品等の最新事情についての概要を解説・紹介して頂いた。

勉強会は関心の高さから、締め切り前に定員に達する応募があった。

当日はプレゼンテーションルームに移動したのち、㈱プレミアム・プラットフォーム・ジャパン 兼 ㈱テレビ東京　島田 政明様と星 雄二 様に Paravi（パラビ）の概要と技術的な説明をして頂いた。

スマホやタブレットで視聴するユーザーが増えている中、Paravi（パラビ）は 2018 年 4 月 1 日に新しく誕生した。

テレビ東京・日本経済新聞社と TBS・WOWOW・電通・博報堂 DY メディアパートナーズ　6 社が共同で立ち上げられた（株）プレミアム・プラットフォーム・ジャパンが運営する新しい動画配信サービスである。

ラインナップは加盟各社の話題のドラマが多数配信されており、テレビ東京・日経新聞社の特色の経済番組やニュース。さらにバラエティなども数多く配信されている。

テレビ東京　月～金の夕方「青春高校 3 年 C 組」は地上波と同時ライブ配信され終了後も Paravi（パラビ）で放課後トークとして独自配信なども行っている。

スポーツでは世界卓球日本戦全試合も配信している。さらに Paravi（パラビ）でしか見られないオリジナルコンテンツなども配信予定だそうだ。

その後の、テレビ東京の社内設備見学会は 1 班 10 人ずつ 4 班に分かれてスタジオ／サブ・CG 室・回線室・マスター室・放送準備センターを見学させて頂いた。

オフィスビルの中の放送局という興味深い設備であった。マスター室は地上波・BS がシンメトリーに配置され、黒を基調とした内装で近未来的空間でした。

また、そのほかの部署も懇切丁寧なアテンドで細かく見学をさせて頂いた。

見学会終了後は、第 225 回技術委員会定例会を開催。その後移動してしてを懇親会を六本木 2 丁目の「ゆにおん食堂」にて開催。（参加者 21 名）

（報告：㈱東京サウンド・プロダクション　佐藤 雅文）